

令和6年度DX観光客動態調査事業

外国人観光客着目動態調査
沖縄県来訪者の直前・直後の滞在都道府県

2025年3月17日

発行 沖縄県文化観光スポーツ部観光政策課

委託先 令和6年度DX観光客動態調査事業共同企業体
株式会社リクルートライフスタイル沖縄
株式会社ブログウォッチャー
公益財団法人九州経済調査協会

外国人観光客着目動態調査
沖縄県来訪者の直前・直後の
滞在都道府県

目次

分析概要・・・・・・・・・・・・・・・・	3
分析上の注意事項・・・・・・・・・・	4
分析結果サマリー・・・・・・・・・・	5
 沖縄県来訪者に占める県外来訪者の比率・・・・・・・・	6
 沖縄県来訪直前・直後の周遊先都道府県・・・・・・・・	7

分析目的

沖縄県に来訪した訪日外国人観光客における沖縄県外の周遊状況を、位置情報データから把握し、プロモーションなど今後の施策立案に活用する。

分析項目

- 沖縄県来訪者に占める県外来訪者の比率
※宿泊した都道府県（出国日の場合は、滞在時間が最も長かった都道府県）を1日単位の主要滞在都道府県とみなし、沖縄県内に来訪した訪日外国人観光客に占める主要滞在都道府県（日単位）に沖縄県以外を含む来訪者の比率を算出
- 県外来訪者における沖縄県来訪直前・直後の周遊先都道府県
※都道府県内のいずれかの市区町村（政令指定都市は市単位）にて、位置情報ログが連続して2回以上記録された場合、該当の都道府県に滞在したとみなし、沖縄県滞前の直前または直後に滞在した都道府県を「直前・直後の周遊先都道府県」として集計

分析期間

2024年1月～2024年12月

地理圏ブロック区分

右表のとおり

地理圏ブロック区分（来訪者国籍）

東アジア	韓国、中国、台湾、香港
東南アジア	タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム
欧米豪	イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、ロシア、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド、デンマーク、アメリカ、カナダ、メキシコ、オーストラリア
その他地域	その他

注意事項

- 本レポートでは、日本国内に連続20日以内の旅程で滞在する外国人を対象とする。
- 「沖縄県来訪者に占める県外来訪者の比率」は、データソースの仕様上、1日単位の主要滞在都道府県に基づいて算出している。このため、他の都道府県に立ち寄った旅程においても、同日の宿泊地が沖縄県内とみなされた（出国日では沖縄県への滞在時間が最も長かった）場合は、同日の主要滞在都道府県を沖縄県とみなし、県外来訪者としてカウントされない。

例）成田空港（千葉県）で入国、同日は東京都内で宿泊し、翌日に沖縄県へ移動、那覇空港から出国

⇒1日目の主要滞在都道府県を「東京都」、2日目以降を「沖縄県」とみなし、県外来訪者にカウント

成田空港（千葉県）で入国、同日中に沖縄県へ移動し、沖縄県内で宿泊、那覇空港から出国

⇒1日目以降の主要滞在都道府県を全て「沖縄県」とみなし、県外来訪者にカウントされない

- 2024年に沖縄県に来訪した外国人観光客のうち、県外にも滞在・宿泊した観光客の比率（県外来訪比率）は10.9%で、前年から7.4ポイント低下した。県内空港への国際線の就航・増便が要因と考えられる。
- 沖縄県来訪直前・直後の周遊先都道府県をみると、周遊先として最も多かったのは、直前・直後ともに東京都で、以下福岡県、大阪府、北海道、千葉県と続いた。このうち、大阪府、北海道では、直前の周遊先比率が直後の周遊先比率と比較して高く、（関東→）近畿・北海道→沖縄→関東の旅程が、その逆順より多いことが示唆された。
- 地理圏別では、東南アジアの県外来訪比率が20.0%、欧米豪が16.1%で、東アジアの8.1%と比べて高い傾向にある。また、周遊先都道府県としては、3 地理圏いずれも「東京都」が、沖縄来訪の直前・直後ともに最も多かった。

注：「県外来訪比率」の算出について

データソースの仕様上、1 日単位の主要滞在都道府県に基づいて県外来訪者を判定し、比率を算出している。このため、下記のとおり、他の都道府県に立ち寄った旅程においても、県外来訪者としてカウントされない場合がある。

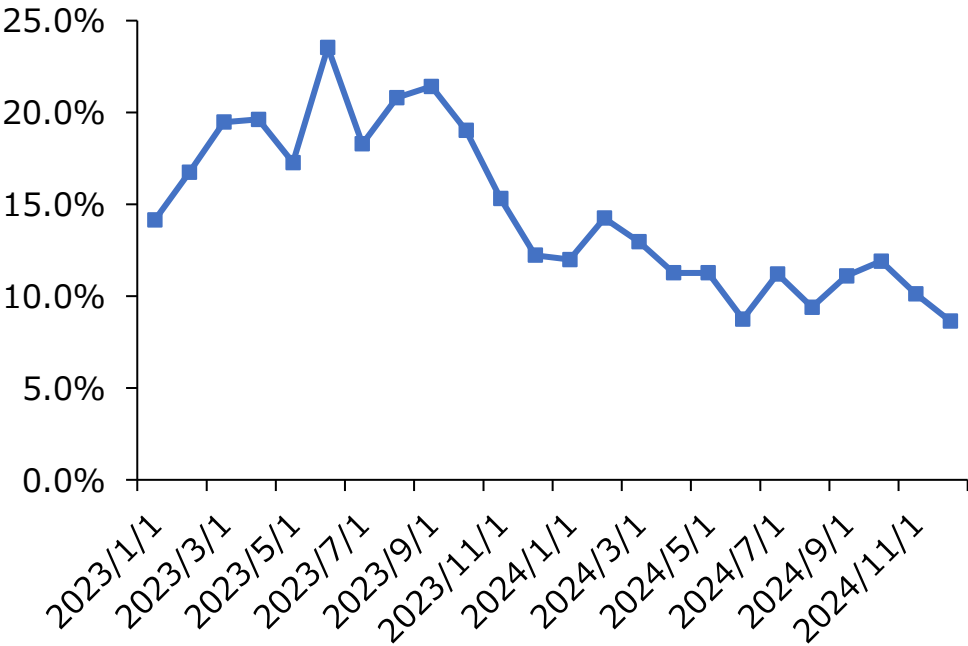
例) 成田空港（千葉県）で入国、同日中に沖縄県へ移動し、沖縄県内で宿泊、那覇空港から出国
⇒1日目以降の主要滞在都道府県を全て「沖縄県」とみなし、県外来訪者にカウントされない

位置情報データ分析の結果、沖縄県来訪者に占める県外来訪者の比率は2024年の年間で10.9%となった。前年（2023年）の比率が18.3%であったため、2024年の比率は前年から7.4ポイント低下している。那覇空港、下地島空港など県内空港への国際線の就航・増便が要因と考えられる。なお地理圏別では、その他地域が79.0%で最も高く、以下東南アジアの20.0%、欧米豪の16.1%と続く。東アジアが8.1%と最も低く、沖縄県のみ滞比率が高くなった。なお月別推移をみると、2023年12月まで低下が続いたのち、横ばい傾向となっている。

沖縄県来訪者に占める県外来訪者の比率
（全体、地理圏別）

	2023年	2024年	（前年差）
全体	18.3%	10.9%	▲7.4 %pt
東アジア	14.2%	8.1%	▲6.1 %pt
東南アジア	32.4%	20.0%	▲12.4 %pt
欧米豪	25.8%	16.1%	▲9.7 %pt
その他地域	85.7%	79.0%	▲6.7 %pt

沖縄県来訪者に占める県外来訪者の比率（月別推移）



注：「県外来訪比率」の算出について
データソースの仕様上、1日単位の主要滞在都道府県に基づいて県外来訪者を判定し、比率を算出している。このため、下記のとおり、他の都道府県に立ち寄った旅程においても、県外来訪者としてカウントされない場合がある。
例）成田空港（千葉県）で入国、同日中に沖縄県へ移動し、沖縄県内で宿泊、那覇空港から出国
⇒1日目以降の主要滞在都道府県を全て「沖縄県」とみなし、県外来訪者にカウントされない

県外来訪者における沖縄県来訪直前・直後の周遊先都道府県をみると、沖縄県来訪の直前、来訪の直後ともに、東京都が周遊先として最も多く、以下福岡県、大阪府、北海道、千葉県と続いた。直前の周遊先比率が直後より高い都道府県としては、大阪府（直前：12.9%、直後：10.4%）、北海道（直前：8.4%、直後：7.9%）などが挙げられる。なお地理圏別にみると、東南アジアでは東京都への周遊比率が高かったほか、周遊先2位の都道府県が直前と直後で異なった（直前：2位 大阪府、直後：2位 福岡県）。

沖縄県来訪の直前の周遊先都道府県、シェア（上位5都道府県）

	1位	2位	3位	4位	5位
全体	東京都(20.3%)	福岡県(12.9%)	大阪府(12.9%)	北海道(8.4%)	千葉県(5.1%)
東アジア	東京都(18.2%)	福岡県(10.0%)	北海道(7.6%)	大阪府(6.8%)	神奈川県(3.0%)
東南アジア	東京都(32.7%)	大阪府(12.2%)	福岡県(9.9%)	千葉県(9.1%)	埼玉県(8.7%)
欧米豪	東京都(23.9%)	大阪府(15.9%)	福岡県(9.0%)	千葉県(5.9%)	神奈川県(5.6%)
その他地域	大阪府(33.6%)	東京都(22.2%)	千葉県(8.7%)	福岡県(7.0%)	京都府(5.9%)

沖縄県来訪の直後の周遊先都道府県、シェア（上位5都道府県）

	1位	2位	3位	4位	5位
全体	東京都(22.2%)	福岡県(13.2%)	大阪府(10.4%)	北海道(7.9%)	千葉県(6.1%)
東アジア	東京都(19.0%)	福岡県(10.2%)	北海道(7.3%)	大阪府(5.8%)	千葉県(3.4%)
東南アジア	東京都(35.9%)	福岡県(12.5%)	大阪府(8.8%)	埼玉県(7.4%)	千葉県(6.2%)
欧米豪	東京都(25.6%)	大阪府(13.0%)	福岡県(9.5%)	千葉県(6.8%)	神奈川県(6.1%)
その他地域	東京都(36.7%)	大阪府(23.9%)	千葉県(16.0%)	福岡県(7.7%)	京都府(4.8%)